



関東ブロック中学校
 社会科教育研究会
 [会長] 宮崎 宏明
 [編集] 東野 茂樹
 [事務局]
 町田市立南大谷中学校
 〒194-0031
 町田市南大谷 985-1
 [題字] 初代会長
 宮崎 謹一郎



会長 あいさつ

会長 宮崎 宏明

(東京都杉並区立西宮中学校長)

今年度より、関東ブロック中学校社会科教育研究会の会長を仰せつかりました、東京都杉並区立西宮中学校長の宮崎宏明と申します。コロナ禍のため紙上開催となった六月の理事会において、高山知機前会長から大任を引き継がせていただきました。本研究会の発展のため、微力ながら職務に励む所存です。会員の皆様、ご関係の皆様には、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【子どもたちの学びと研鑽を止めない】

今から約三年前、学校現場をコロナ禍が直撃しました。この三月に卒業する中学三年生は小学校の卒業式や中学校の入学式もままならず、中学校の授業も六月頃からやっと、この年度に行われるはずだったほとんどの学校行事は、中止・縮小を余儀なくされるといいう状況で中学校生活をスタートしました。この子どもたちが中学校で過ごした

三年間は、私たち関ブロ中社研の会員は言うに及ばず、全国の教員が子どもたちの学びを止めないよう、努力と工夫を重ねた三年間でありました。

関ブロ中社研の研究活動も困難を極めました。令和二年度に行われるはずだった横浜大会は一年延期され、東京大会と同じ年に実施されました。あきらめることなく準備を続けてこられました横浜市・神奈川県の子どもの皆様には敬意を表します。

【群馬大会開催にあたって】

今年度になりやや落ち着いたかに見えたコロナ禍ですが、六月の終わり頃から再び牙をむき始めました。齋藤亮一会長はじめ群馬大会実行委員会の皆様は、最後まで子どもたちの安全を第一に考えながらも、状況に応じた運営方法を検討してこられました。その甲斐あって第四〇回研究大会(群馬大会)は、十一月十八日に無事開催されました。規模を縮小しながらも、オンデマンド方式を併用

した効率のよい大会であったと思っています。

平成二十九年三月に告示された中学校学習指導要領に先立つ中央教育審議会においては「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのか」という目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすること」が重要であるとされました。まさに、群馬大会の主題「未来を切り拓き、たくましく生き抜く生徒を育てる社会科学習」と趣旨を同じくするものであります。また、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(いわゆるアクティブラーニング)の視点に立った授業改善の推進を求めています。これも副題である「他者と協働し解決に結びつける力の育成」に通ずるものであります。粘り強く研究活動と大会の準備を進めてこられました群馬大会実行委員会、群馬県小学校中学校教育研究会中学校社会科部会の皆様には改めて感謝申し上げます。

【教師を育てる研究会として】

学校が小規模になり同じ教科の教員が少ない。ただでさえ多忙な上、コロナ禍の影響により校外で教科の指導などを学ぶ機会が少なくなつたという声をよく聞きます。こうしたことは授業の質に関わる大問題であり、子どもの学びにも大きく影響します。大変であっても教師を育てる研究活動の火を消さない。本研究会はその要の一つでありたいと願います。教師の力が向上すれば、必ず子どもたちの未来につながると信じています。

第四〇回 関東ブロック中学校社会科教育研究大会群馬大会を終えて

大会実行委員長

群馬県小学校中学校教育研究会中学校社会科部会長

齋藤 亮一

(伊勢崎市立境南中学校長)



第四〇回 群馬大会概要

- ・ 期日 令和四年十一月十八日(金)
- ・ 大会行事事会場 オンデマンド開催
- ・ 講演 「地域の資産をどう伝えるか―ユネスコ評価の群馬の資産を例として」
- ・ 講師 熊倉 浩靖 氏 (高崎商科大学特任教授)
- ・ 研究授業会場 (紙面開催)
 - 地理的分野 高崎市立大類中学校
 - 歴史的分野 高崎市立群馬中央中学校
 - 公民的分野 高崎市立第一中学校

今般、第四〇回関東ブロック中学校社会科教育研究大会を群馬県において開催できたことを大変光栄に思うとともに、関係各位の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

本大会にあたり、当日、社会科学を学習する生徒たちの表情を思い浮かべ、わくわくする思いとなりました。なぜならば、生徒の学びについて、これまで関わる社会科教師が集い、生徒の興味・関心や疑問を大切に与え、対話を通し、学び合う思考過程を一層重視しながら授業づくりを進めてきたからです。そして、そこには、生徒が常に主役で

あることに基づき期待と問いがあつたからです。

群馬県の社会科教育の研究は、これまで脈々と多様なアプローチにより組織的、計画的に積み重ねられて参りました。四年前に本大会の研究主題が検討され、「未来を切り拓き、たく

ましく生き抜く生徒を育てる社会科学習く他者と協働し解決に結びつける力の育成」とまとまり策定されました。その後、幾多の研究授業を含めた貴重な実践が県内各地域で重ねられ、社会科学習のより高次の問いを念頭に進めて参りました。本大会は、正に、本研究会にとって、社会科学教育の充実を目指す同士のもと、今後の社会科学教育の発展



【主題へ迫る具体的なアプローチを示す基調提案】

へ大きく一石を投じる意義深い無二の機会であり、大切な節目としてとらえていきます。そして、このことに際し、コロナ禍により何度も検討を重ねた結果として、関わる方々の健康安全を第一として、参加者を大きく制限し、オンデマンド配信及び研究紀要による紙面での本大会の開催の有り様に、ご理解とご協力に重ねて感謝申し上げます。

結びに、群馬県教育委員会をはじめ、本大会の研究発表会場となり、ご協力いただいた高崎市教育委員会、そして研究授業を実践していただいていた高崎市の中学校三校、及び高崎市中学校社会科主任会の皆様には厚く御礼を申し上げます。併せて、本大会における大会記念のご講演につきまして、本大会における大会記念の「地域をどう伝えるか」をテーマに、社会科学習指導を進める上で、大変貴重な視点をご教示いただいた高崎商科大学特任教授の熊倉浩靖様に、改めて御礼を申し上げます。

皆様、本大会を通じた成果や課題を含めた実りの収穫と目指す社会科学教育の益々の充実と発展に向け、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。



【熊倉 浩靖 様による貴重な記念講演】

群馬大会く地理的分野授業報告く

石原 浩毅

(高崎市立大類中学校教諭)

本時は、中部地方の産業について調べてきたことをまとめる活動を行った。

北陸、中央高地、東海の三つの地域を分けて調べさせ、それぞれが担当した地域を説明するというジグソー型学習を取り入れたことで、生徒の主眼的な活動を導くことができた。また、調べる内容を自然環境、農業、工業の三つに絞ったことで、単元を通しての課題である『中部地方の三つの地域ではどのように産業が発展してきたのか』について、細かい所まで具体的に、かつ短時間で探究することができた。特に、タブレットの共有機能は、作業の効率化と共にグラフや写真資料など視覚的に分かりやすく根拠を持って説明させることに有効であった。

他者との協働という点では、自然環境や交通網などキーワードに着目させることで、既習地域の産業と比較したり、共通点を見出したりさせることができ、そこから課題解決に結びつけている生徒が多く見られた。

課題としては、分担以外の理解がしっかりできているのかという点が挙げられる。また、班毎の進捗状況に差が生じ、活動の時間が充分に取れない班があった。特に本時の場合は、資料がタブレット内にしか存在せず、今後は手元に残るような工夫をする必要があると感じた。

群馬大会く歴史的分野授業報告く

安井 航

(高崎市立群馬中央中学校教諭)

本時は、中世の特色を古代と比較しながらまとめる活動を行った。

単元構想の作成と共に振り返りシートを活用したことで、学びの蓄積と自身の成長を実感させることができ、単元を通じて生徒に主体的に学ぶ態度をもたせることができた。まとめの場面では、生徒の実態に合わせて三種類のカードを用意し、生徒が選択し全員が単元の課題に対するまとめをできるようにした。また、電子黒板での掲示やタブレットの共有機能などICTを活用したことで、個人の思考の整理や他班の意見を参考にして考えを深めることができた。また、その際には文字の色を工夫し、思考の深まりを可視化させることもできた。

Xチャートを用いた比較・検討により中世という大きな枠組の複数の面を効率的に捉えさせることができた。特に、本時のまとめでは「会話」による伝え合い活動を行ったが、その際の根拠として活用することができた。

課題としては、他者との協働という点で考えたときに、古代との比較や班での議論などの時間をもう少し長く設定できればと感じた。そのためには本時の活動内容やICTの活用方法の見直し、個・グループ・集団といった学習形態の精査が必要であった。

群馬大会く公民的分野授業報告く

山本 祐哉

(高崎市立第一中学校教諭)

本時は、地方公共団体が抱える課題とその解決策について、ふるさと納税を題材に考え、まとめ表現する活動を行った。

単元として各単位時間のつながりを意識し、高崎市の出前授業を取り入れたことは、地方財政の抱える課題等を具体的に考え、地方自治と自分たちの関わり方について主体的に考えることに有効であった。

ふるさと納税に関する三つの異なる立場ごとに、それぞれ資料を読み取り、メリット・デメリットを表にまとめる活動において、二人組をつくり、資料の読み取り、タブレットへの入力を担当し、協力して取り組ませたことで、意図的に協働の場面を作ることができた。タブレットの共有機能を活用したことが、一つの活動にかかる時間を大幅に短縮し、自他の考え比較しながら話し合う時間を確保することに繋がった。また、常に他者の意見や資料を見ることができている状況は、自分の意見の根拠を明確にしながら表現することにも有効であった。

課題としては、本単元の目標の「主体的に地域社会に参画しようとする自治意識をもつこと」と「ふるさと納税」という題材の関わりが挙げられる。目標や評価を更に明確に、そしてつながりがある単元構想を作成する必要があった。

第四十一回 関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉(久喜)大会に向けて

大会実行委員長

埼玉県社会科教育研究会長

増田 正夫

(加須市立加須小学校長)



埼玉県では、これまで五回にわたり関東ブロック中学校社会科教育研究大会を大宮市(現さいたま市)、浦和市(現さいたま市)、加須市(合併前)、熊谷市(合併後)、川越市において開催してきました。それぞれの大会では各時期の学習指導要領に対応した研究を積み重ね、数多くの実践を重ねてきました。この度、埼玉県としては六回目になる第四十一回関東ブロック中学校社会科教育研究大会を令和五年十月二十七日(金)に、久喜市立栗橋東中学校(地理的分野)、鷲宮東中学校(歴史的分野)、久喜中学校(公民的分野)の三つの中学校を会場として開催することとなりました。関東地区の関係者の皆様には、是非御参観いただければ幸いです。

さて、全面実施三年目を迎えた中学校学習指導要領では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、社会との連携・協働によりその実現を図っていくことが求められています。そこで、埼玉県社会科教育研究会では、令和三年度から県内各地域から推薦された約五十名の教員による研究部を立ち上げ、これからの社会科授業のあり方について調査・研究を推進してまいりました。今回の久喜大会の研究主題は「よりよい社会の創り手を育てる社会科

学習」副題は「社会的な見方・考え方を働かせた深い学びの追究と評価の一体化」です。「よりよい社会」とは、平和で民主的な国家や社会を基本的な考え方としています。「創り手」はまさに生徒自身です。「社会科学学習」では、社会的な見方や考え方を働かせた深い学びの積み重ねによって、新しい時代に必要となる資質や能力を身に付けさせることをねらいとします。そのために、小中高の系統性を見据えた研究や学習評価の研究、深い学びの研究、ICTの活用やSDGs等次世代を見据えた研究を具体的に進めています。

この主題追究も踏まえ、数年間の研究部の理論研究を基にしながら県内五地区でブロック別授業研究会を開催し、その成果と課題を基盤に、分野ごとに授業研究に取り組んできました。ここに至るまでには、コロナ禍のため参加しての協議は制約されましたが、その一方でオンラインによる熱心な情報や意見交換をとおして研究を推進してきました。ここで本題から少し離れますが、令和四年度の埼玉県の研究概要について、主な取組を報告させていただきます。

(一) 第五十四回 地域学習会

八月五日(金)さいたま市岩槻人形博物館で、地域素材を生かした教材開発の手法について学びました。併せて第五十二回研究発表大会を開

催しました。

(二) 第四十八回 ブロック別授業研究会

埼玉県内を東西南北各地区とさいたま市の五つに分け、各ブロックで大会主題を踏まえた授業を公開し、研究協議を深めました。

(三) 第五十二回 中学校基礎学力調査

問答委員会で三分野の問題を作成後、抽出校で実施、その後分析委員会で基礎学力について協議・検討を重ねました。

(四) 関東ブロック研プレ大会の開催

十一月二十五日、三会場で各分野の研究授業を実施し、玉川大学教授樋口雅夫先生から全体指導をいただきました。本大会当日も樋口先生から御指導をいただく予定です。

以上、関東ブロック社会科研究大会を見据えて実践してきた事業の一部について紹介をさせていただきます。

大会当日は、関東全域からお越しいただく皆様のアクセスを考慮し、また、全体会後の移動を無くすため、開会より三校の会場校開催とします。午前開催の全体会・講演会は久喜中学校で行い、他の二つの会場にオンライン中継します。なお、栗橋東中学校の最寄り駅は、JR宇都宮線と東武日光線が乗り入れる栗橋駅になります。(徒歩二〇分 一・四km)鷲宮東中学校の最寄り駅は、JR宇都宮線の東鷲宮駅になります。(徒歩三五分 二・四km)久喜中学校の最寄り駅は、JR宇都宮線と東武伊勢崎線が乗り入れる久喜駅になります。(徒歩二〇分 一・四km)

結びに、このような貴重な機会を頂いた関係各位に感謝申し上げますとともに、次年度「久喜市」に足をお運びいただけますよう祈念し、御挨拶とさせていただきます。

茨城県の研究概要

茨城県教育研究会 社会科教育研究部長

鈴木 稔

(水戸市立常澄中学校長)

《研究テーマ》
対話を通して、

未来を創る力をはぐくむ社会科学学習

一 研究テーマについて

研究テーマは「対話を通して、未来を創る力をはぐくむ社会科学学習」である。「社会的事象と自分との対話」「他の学習者と自分との対話」「今までの自分と今の自分との対話」の三つの対話を充実させ、主体的に学びに向かい、多様な人々と協働して、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していく「未来を創る力」をはぐくむことができるように授業づくりを進めている。

二 研究経過

本県では、郡市ごとに研究部を組織し、各郡市研究部長を中心に研究テーマに迫るための実践的な研究を進めている。今年度も継続して、「三つの対話」を通して「未来を創る力」をはぐくむための研究を進めてきた。さらに、令和六年度に実施が予定されている関東ブロック中学校社会科教育研究大会茨城大会に向けて、大会主題案の検討を進めてきており、令和五年度始めの郡市部長研修会において決定する予定である。

三 研修会及びその他の事業

(一) 郡市部長研修会 (書面開催)

第一回は主に役員を選出、事業計画案や予算案の審議を、第二回では主に事業報告や会計決算報告、次年度の事業計画案の審議を文書で報告した。

(二) 研究推進委員研修会 (ハイブリッド開催)

関中社会茨城大会に向けて、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官兼文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 中嶋則夫先生に講師を依頼し講演を行った。また、大会についての説明及び協議を通して研究内容や今後の見通しについての理解を深めた。新年度以降、本研究推進委員を中心に県内各地区で授業研究会を行い、実践的研究を推進していく予定である。

(三) 学力診断のためのテスト問題作成

本県独自に実施している「学力診断のためのテスト」は、①生徒の資質・能力を育成し学力の向上に努めること、②生徒の実態を把握して授業改善に生かすことの二点を趣旨とする。令和四年六月に問題作成委員会を立ち上げ、令和五年一月にテストを実施した。実施後、各校においてさらに育成すべき資質・能力を明らかにし、補充学習を行った。

栃木県の研究概要

栃木県中学校教育研究会 社会部会研究部長

小松 哲郎

(矢板市立片岡中学校)

《研究主題》

社会を見つめ、社会と関わる力を育む

社会科学学習の創造

一 研究の概要

栃中社研は、来年度十一月に開催される、第五十六回全国中学校社会科教育研究大会(栃木大会)に向けて準備を進めている。研究主題については、平成三十年に行われた第三十六回関東ブロック中学校社会科教育研究大会(栃木大会)と同じであるが、その成果と課題を踏まえ、再構成し直したものとなっている。

二 活動の概要

昨年度は研究主題についての基調提案作成が主であった。それを踏まえ今年度は、基調提案に基づいた授業づくりや分野ごとの理論構築が主な活動内容となった。

(一) 栃木県中学校教育研究会社会部会

夏季研究大会

毎年開催されているが、今年の本大会では、

九月以降に行われる地区別授業研究会で実践予定の授業について、検討がなされた。

・期日 令和四年八月五日(金)

・会場 とちぎ青少年センター

・内容 基調提案の説明

地理的分野検討会(県南地区)

歴史的分野検討会(県央地区)

公民的分野検討会(県北地区)

(二) 地区別授業研究会

全中社栃木大会で実践予定の研究授業及び、

研究協議がなされた。

- ①九月三十日(金)栃木市立岩舟中学校 地理的分野「世界の諸地域」
 - ②十月三十一日(月)北高根沢中学校 公民的分野「私たちと政治」
 - ③十一月四日(金)足尾中学校 歴史的分野「近世の日本」
 - ④十一月十五日(火)大内中学校 歴史的分野「中世の日本」
 - ⑤十一月二十五日(金)西那須野中学校 公民的分野「私たちと経済」
 - ⑥十一月二十八日(月)佐野南中学校 地理的分野「日本の諸地域」
- (二)各部会等
- ①県幹事研修会(四回)
 - ②全中社栃木大会実行委員会(三回)
 - ③県研究部研修会(四回)
 - ④全中社栃木大会第一次案内の配布(十一月)

千葉県の研究概要

千葉県教育研究会社会科教育部会会長

加藤 伸彦

(千葉市立幸町第二中学校長)

〔研究主題〕

『よりよい社会の実現に寄与する

「生きる力」を培う社会科学習』

一 研究の取り組み

本研究会では、社会的現象に対して地球的な視野で考え、主体的にかかわり、判断し行動できる態度と能力、すなわち、よりよい社会の実現に寄与するための「生きる力」を培うことが何よりも

大切であると考え、次に示す四点を「生きる力」ととらえ、本研究主題を設定し、研究を進めている。

◆豊かな人間性や社会性をもち、国際社会に生きる日本人としての自覚があること (豊かな社会性)

◆よりよい社会の実現に必要な基礎的・基本的な事項を理解すること (基礎的・基本的な事項への理解)

◆社会的現象に関心をもち、進んで課題を見つけ、意欲的に問題を解決する資質や能力をもつこと (社会的現象に関する関心・意欲)

◆社会的思考力・判断力・表現力等の能力をもち社会の変化に主体的に対応できる力をもつこと (主体的に学ぶための能力)

二 研究会事業

(一) 研究体制

本研究会では、平成二十三年度に改訂した上述の研究主題の下に、県下十六支会がそれぞれ地域の実態を加味した主題を設定し、授業研究や巡検などを行い、以下の研究大会・研修会で研究協議をしていく中で研究主題に迫るようにしている。

(二) 研究大会

研究会としての中心的な活動は、研究大会と宿泊研修会である。隔年で研究大会と宿泊研修会を交互に開催して実践を持ち寄り、研究協議を深め主題に迫るようにしている。大会運営は各支会が実施の主体となっており、支会内の研究レベルを高める良い機会となっている。研究大会は一日開催で授業研究を、宿泊研修会は一泊二

日実践提案を中心にしており、加えて、講演会と研究協議会を行っている。昨年度の君津宿泊研修大会は、実践提案論文を募り今年度書面開催の形で行った。今年度の東総研究大会はHP上にて授業研究提案を行い、意見を募る形での開催となった。今後の研究大会の在り方を模索している。

東京都の取組

東京都中学校社会科教育研究会会長

佐藤 敏数

(羽村市立羽村第三中学校長)

〔研究主題〕

「グローバル化する社会を生き抜くこれからの生徒を育てる社会科学習」―よりよい社会を実現するための資質・能力の育成―

一 研修会(全国・関東・東京都合同開催)

(一) 夏季セミナー 八月二十五日(木)

〔演題〕 『一八歳成人年齢施行を踏まえた中学校に期待される消費者教育の在り方』～学習指導要領の教育目標との整合性をはかってみる～

講師 樋口 雅夫 先生(玉川大学教授 文部科学省消費者教育アドバイザー・元教科調査官)

(二) 冬季セミナー 二月三日(金)

〔演題〕 『地理的分野の学習における深い学びとは』～新学習指導要領の着実な実施に向けて～

講師 中嶋 則夫 先生(文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)

*夏季・冬季ともにオンラインによる実施

二 研究部

(一) 全国中学校社会科教育研究会名古屋大会
十一月十一日(金) 分野別発表 地理的分野
【発表者】 藤田 淳 (港区立高松中学校主幹教諭)
近藤 沙耶香 (足立区立千住桜堤中学校
主任教諭)

主任教諭)

(二) 社会科指導技術向上研修会 (示範授業)

二月九日(木)

【授業者】 関 眞規子(文京区立第六中学校指導教
諭) 第一学年歴史的分野 「B 近世までの日本と
アジア (2) 中世の日本」

【講師】 石上 和宏 先生(杏林大学非常勤講師
元全国中学校社会科教育研究会会長)

(三) 三分野合同研究発表会 一月二十一日(火)

なかのZERO (もみじ山文化センター)

【講演】「グローバル化する社会を生き抜くこれか
らの生徒を育てる社会科学習の在り方」

【講師】 大杉 昭英 先生(早稲田大学教育学部
非常勤講師 元国立教育政策研究所 初等中等
教育研究部長 独立行政法人教職員研修機構
次世代教育推進センター長(上席フェロー))

三 編集部の事業

『会報 第九十五号』

『研究紀要 第六十一号』

四 事務局

都中社研会員名簿の作成及び発送、会報や研究
紀要の印刷手配及び発送、都中社研ホームページ
の運営及び更新、示範授業やセミナー運営、研究
発表に向けての準備等

都中社研会員名簿の作成及び発送、会報や研究
紀要の印刷手配及び発送、都中社研ホームページ
の運営及び更新、示範授業やセミナー運営、研究
発表に向けての準備等

神奈川県の研究概要

神奈川県公立中学校教育研究会社会科部会会長

山我 智康

(横浜市立中山中学校長)

(研究テーマ)

「社会的な見方・考え方を働かせた『思考力・判
断力・表現力』を身につけさせる単元の工夫」

一 地区別巡検

○藤沢地区の研修(七月十一日)

○ニユースパーク見学(十一月二十五日)

○横浜みなと巡検(十一月二十五日)

二 地区別授業研究大会

①日時 令和四年十月二十七日(木)

②会場 伊勢原市立伊勢原中学校

③授業者 地理的分野 山口貴裕(伊勢原中)
歴史的分野 五十嵐俊典(成瀬中)
公民的分野 武 洋平(伊勢原中)

④基調提案 飯島勇雄(成瀬中)

本大会の研究主題である「社会的な見方・
考え方を働かせた思考力・判断力・表現力等
の育成を目指して」学習内容から生徒自身
が学習課題を立てる探究的な授業の実践」
について伊勢原市の社会科教員で取り組ん
だ授業展開の実践の紹介し、成果と課題を
提言した。

⑤分科会 I

研究授業の三分野に分かれての研究協議

分科会 II

分野ごとに二本の研究提案を行い研究協議

研究協議

研究協議

研究協議

研究協議

研究協議

研究協議

研究協議

研究協議

⑥講演 岡明秀忠氏

(明治学院大学教授)

「学習内容から生徒自身が学習課題を立
てる探究的な授業の実践について」

三 幹事会の実施

六月・七月・十月・十一月・一月の五回の幹
事会を各地区で開催した。

横浜市の取組

横浜市立中学校教育研究会社会科部会会長

石川 博

(横浜市立西中学校長)

(研究主題)

「今年度の研究テーマを「よりよい社会を実現
する力を育む社会科学習」社会的な見方・考え
方を働かせた深い学びをめざして」

一 研究主題について

昨年度の研究大会での反省やさまざまな御意見
をいただいたことを受け、今年度も同様の研究テ
ーマにし、「教材とは何か」を視点として授業実践
の積み重ねを行うことにした。

二 授業研究

①研究授業 令和四年十月二十六日(寺尾中学校)

「人口が増えているところにはどんな特徴が
あるのだろうか?」(日本の諸地域 関東地方)

②研究協議会 令和四年十二月十四日(西中学校)

研究授業の報告と研究協議

研究協議

三 研修事業

①春季講演会 令和四年五月十一日(泉公会堂)
【演題】「社会科学としての資質・能力を育むための単元構成と指導と評価の一体化」

【講師】磯山 恭子 氏(文部科学省教科調査官)
②夏季研修講座 令和四年八月二日(日本新聞博物館)
【演題】「横浜の財閥 浅野総一郎と横浜」

【講師】田村 泰治 氏(浜中社元会長)
【演題】「学習指導要領がめざす中学校社会科の指導と評価について」

【講師】渡邊 智紀 氏(お茶の水女子大学附属中学校)
③冬季講演会 令和五年一月十八日(花咲研修室)

【演題】「デジタル化と民主主義、人権」
【講師】山本龍彦氏(慶応義塾大学法科大学院)

④横浜みなと巡検 令和四年十月二十一日
大通公園、吉田橋、馬車道、県立歴史博物館、横浜開港資料館、大棧橋、横浜公園、中華街他

⑤第五六回浜中社巡検「鶴見・川崎今昔巡検」
令和四年一月一二日
子安漁港、生麦事件碑、鶴見川旧河口干潟、国道駅、川崎宿本陣跡、東海道かわさき宿交流館

四 横浜市立中学校総合文化祭社会科部門

①社会科研究発表会 令和四年十二月十日(横浜歴史博物館)

「保土ヶ谷区旧東海道探索」(保土ヶ谷中学校)
「なぜ、大坂の陣で豊臣方は負けたのか」(金沢中学校)

「都道府県バトル」私たちが魅力を発掘します」(名瀬中学校)

②社会科作品展 令和四年十二月十日(令和五年一月十一日)

横浜市歴史博物館にて生徒の作品展示(五十六校)

五 その他

①授業づくり委員会を対面とリモートで行い、若手の育成を行った。

②人権教育特別委員会では役員の研修を行った。

事務局だより

事務局長 小島 千恵

(町田市立南大谷中学校長)

第四〇回関東ブロック中学校社会科教育研究会群馬大会が、高崎にてオンデマンド開催されました。コロナ禍により、全国の数多くの研究会が大会開催に向けて検討を重ねる中、群馬大会実行委員会においても検討に検討を進め、そのご苦労の大きさは計り知れないものがあつたと思えます。最善を尽くして当日を迎え、研究大会を無事に行えたこと、心より感謝申し上げます。

私たちは、どのような状況にあつても、「生徒の学びを止めない」、「研究を止めない」という強い思いで数々の工夫を重ね、ここまで進んできました。その中で培ってきた考え方や手法をこれからの研究活動において活かし、今後も絶え間のない発信を行っていきたくと思っています。

群馬大会では、『地域の資産をどう伝えるか』という演題で記念講演が行われ、生徒が地域を知る

ことを通して、たくましく生き抜く力を育てることを『上毛かるた』という郷土教材の活用からご講演いただきました。群馬の豊富な資産を例とし、人々の営みが生み出した魅力ある地域の資産から生徒に迫っていく、とても興味深いものでした。

地域を知り未来につないでいくことの重要性に改めて気付かされ、それぞれの都県市がもつ貴重な資産に目を向け、そこにある学びを各研究会が中心となり発信することの大切さを再認識した大会となりました。

編集後記

平成三十一年三月に第三十号が発行されて以来、実に四年ぶりの会報を発行することができました。元号が令和となり初めての発行となります。

各都県市の研究会の活動を取りまとめ、いくらかで、コロナ禍以降も工夫を重ねて研究を進めてこられた様子が伝わってまいりました。このことから、これまでの期間は、空白の四年間だったのではなく、力を蓄える四年間であつたことが分かります。

令和五年五月以降は、感染症対策の大きな転換点を迎え、研究活動の制約が見直されることが予想されます。コロナ禍だからこそできた工夫を生かしながら、各都県市の研究活動がより活発になることを祈念いたします。

次号ではそれらの成果をご紹介しますことを楽しみにしております。

編集部長 東野 茂樹
(葛飾区立堀切中学校副校長)